

自己評価システムの観光産業への利用に向けた考察と検討

第9回国連CEFACT観光部会

2023年2月16日

ST検討プロジェクト

サブリーダー 板垣和芳

趣旨

1. 観光産業におけるSDGs達成度の評価基準については、既にGSTCが持続可能な観光の国際基準の策定・管理を目的に活動をしている。
2. この基準取得例として、オランダのTravelife社から東武トップツアー社が持続可能な観光に関する認証「Travelife Partner」を昨年夏に取得したことがNews Releaseから報道されている。
3. STプロジェクトでは、現状の観光産業の多様な規模・形態への対応を可能にする達成度の評価方法を検討して提案した。
4. 今後は、観光産業での適合性や標準的な評価手法に向けたSDGs推進の評価方法と標準化に向けた検討を行う。

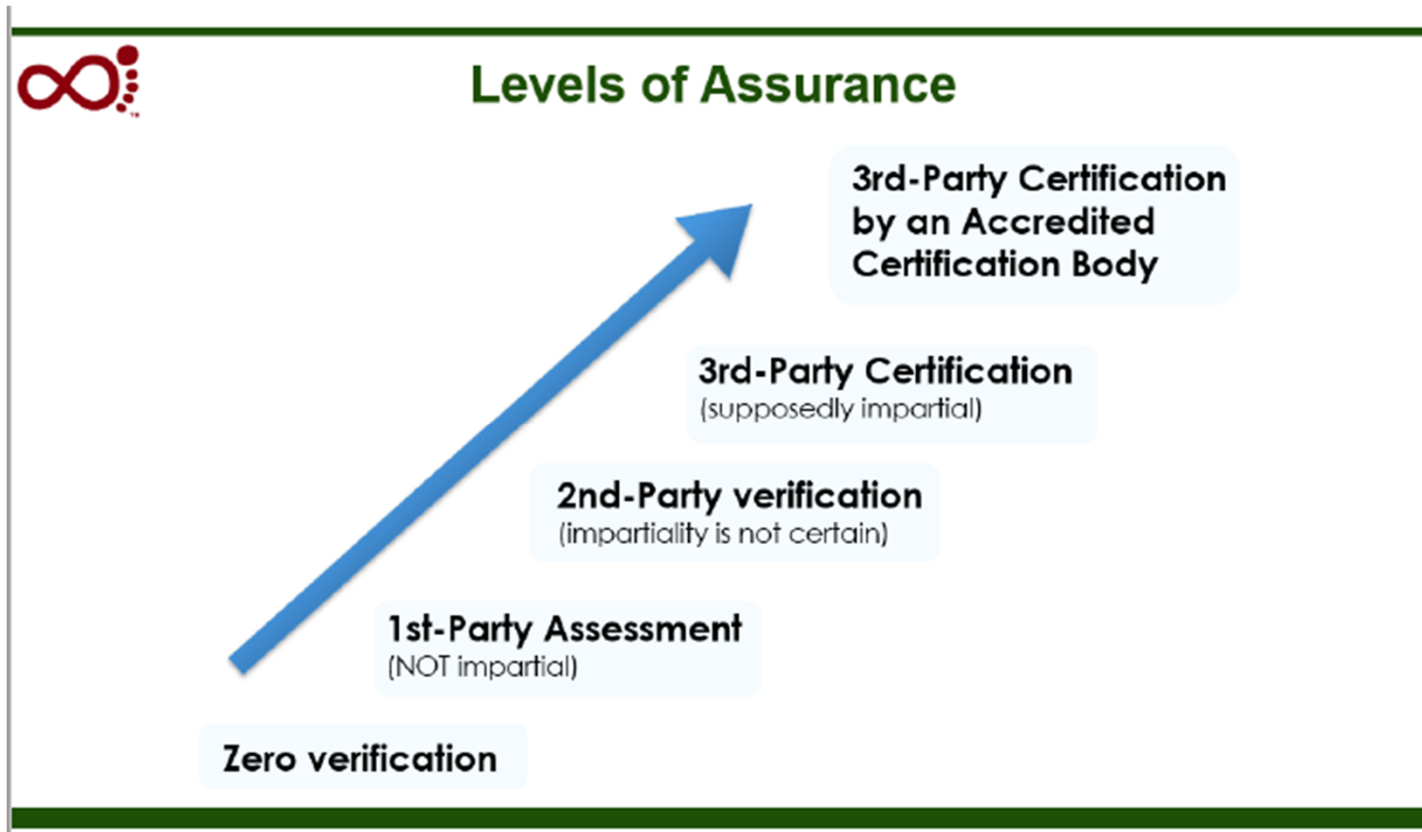
1. 観光産業におけるSDGs達成度の評価基準

1) GSTCにおける評価手法

- GSTC発足以前から世界ではすでに、特定の地域で独自に開発されたものなど、多数の持続可能な観光指標やエコラベル等が存在していた。
- しかし、GSTCは世界で唯一国連世界観光機関（UNWTO）の指示の下開発された指標であり、国際連合環境計画（UNEP）などの国連機関、民間企業、NGOなど世界150以上の団体と連携し、その適切性がモニタリングされている。
- 2セットのGSTC指標が開発された。
 - 1) 観光産業向けの指標（ホテル & ツアー オペレーター）
（2008年, 2012年, 2016年） - 42基準/167(H)/182(TO) 指標
 - 2) 観光地向けの指標
（2013年, 2019年） - 38の基準 / 174 指標

1) GSTCにおける評価手法

GSTCの保証のレベル



2)日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）における評価手法

観光指標とは

- 観光客の入込人数や消費額など経済的な側面だけを対象とするものではなく、例えば、観光地の運営に地域住民の意見を反映しているか、地域の自然や文化的資源の保護計画が策定されているか、危機管理は的確になされているかなど、経済、文化、環境、住民それぞれの広範な分野に及ぶ。
- 観光指標は、各分野について設定された項目に対し、客観的なデータ測定による現状把握、目標の設定、取組・対策の実施、達成状況のモニタリング及び検証結果に基づく改善という循環を繰り返すことにより、観光が地域に与える影響のプラス面を最大化し、マイナス面を最小化するための指針を示すものと位置付けられる。

実施主体における指標の取扱い ～取り組む前の心構え～

- **まずは自己評価**
- 得意、不得意分野の把握
- 得意分野の今後のあり方、不得意分野への今後のアプローチの要領を検討
- **自己評価結果及び今後の方針を公表**
- 公表内容に基づき目標に向かって邁進
- とりあえずは、できるところから

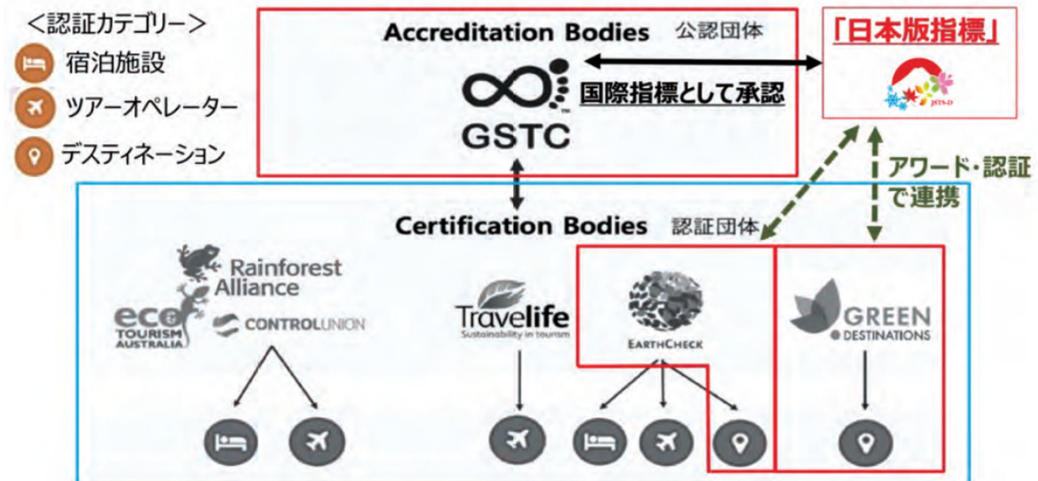
2)日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）における評価手法

各項目をクリアする要領（国際的な評価の向上、認証の目指し方）～取組中の心構え～

- 既存の予算における通常の業務内に、各種項目をクリアするための取組やデータはいくつも転がっている。
- 中には地域によっては実施困難な項目もあると考えられるが、一つ一つを見れば全体として、決してハードルの高い取組ではない（前例のない取組、聞き慣れない用語が多数登場するため、心理的なハードルが自然と高くなっている可能性が高い）。
- 「①方針があるか→②実行計画があるか→③実行しているか→④モニタリングしているか」の流れが出来ているかを、各項目ごとに確認すること。
- 「当たり前なことしかしておらず、特別な取組をしていない＝何も実行していない」、と一概に判断してしまうのではなく、「当たり前」な取組そのものが国際的に見れば「素晴らしい取組」と評価されることは少なくないことに留意する必要がある。
- 各項目ごとに先行事例を記載しているが、各項目への取組方法は、地域の実情を考慮して実施者において決められるべきものであるため、先行事例の内容にこだわらないこと。先行事例はあくまでも例示である。

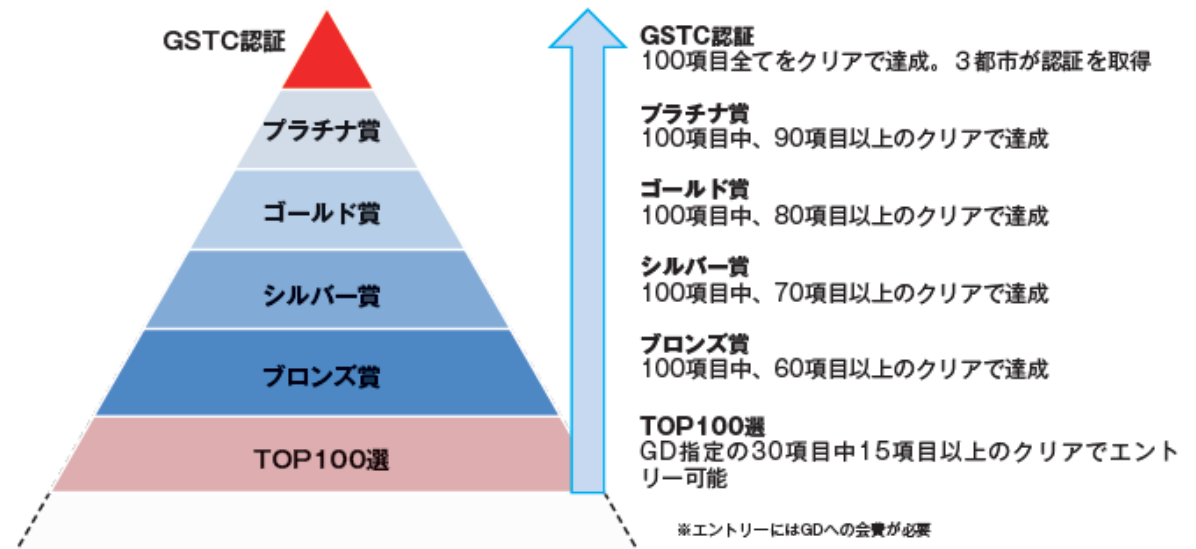
2) 日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）における評価手法

- GSTCと認証団体の関係図



【認証制度の例示】

Green Destinations Standard (GDS) による GSTC 認証取得までのステップ



2)日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）における評価手法

持続可能な観光指標を活用した観光地マネジメントの推進に係るUNWTO駐日事務所と自治体等の役割

UNWTO駐日事務所	自治体、観光地域づくり法人(DMO)等
<ul style="list-style-type: none">○ 持続可能な観光指標を活用した観光地マネジメントに関するガイダンス (意義、必要性、具体的取組、INSTOの取組の紹介等)○ 専門家・学識経験者との連携を踏まえた自治体への継続的アドバイス○ 自治体、観光地域づくり法人(DMO)等間の情報共有、取組評価に関する場の提供○ 対外的な発表機会(国際会議等)の提供○ UNWTO本部、GSTC等への橋渡し <p>(INSTOに申請する場合)</p> <ul style="list-style-type: none">○ 各地域が作成した提出書類の事前確認、UNWTO本部への提出	<ul style="list-style-type: none">○ 関係者グループ(ステークホルダーワーキンググループ、WG)の組成(6.指標導入のステップ③)○ 関係者を集めた協議会(WG)の主催・運営 (地域の観光振興における課題の特定、ビジョンの策定)(6.指標導入のステップ④)○ モニタリングの実施→政策の実施→評価→政策の改善(6.指標導入のステップ⑤~⑦)○ 国際会議等への参加、発表 <p>(INSTOに申請する場合)</p> <ul style="list-style-type: none">○ 申請書類の提出等○ 具体的政策、モニタリングに用いる指標として「日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)」等を選択

2) 日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）における評価手法

News Release



広報資料 TT23003

2023年1月24日

持続可能な観光に関する認証「Travelife Partner」を全社レベルで取得



東武トップツアーズ株式会社（本社：東京都墨田区、社長：百木田康二）は、グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会(GSTC)の公式認証機関である Travelife 社(本社：オランダ)より、持続可能な観光に関する認証「Travelife Partner」を更新し、47 都道府県に拠点をもち、従業員数 2 千名以上の規模の旅行会社全体を対象とする認証を得ましたので、お知らせします。

- 当社が今回更新した「Travelife Partner」は、3段階ある認証のうちの2段階目にあたり、組織の社会的責任に関する国際規格 ISO26000、および100項目以上の基準への準拠が認められたものです。
- 当社は今後、3段階目にあたる「Travelife Certified」の認証基準を満たすことも視野に、環境に配慮した取組を全社的に進め、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

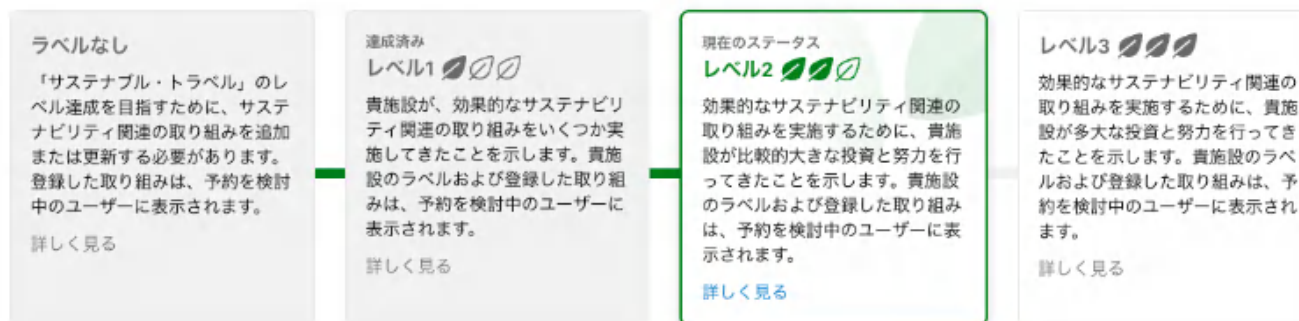
3)booking.comにおける評価手法

- 「サステナブル・トラベル」のラベルは貴宿泊施設のサステナビリティへの取り組みが認められたことを示すものであり、サステナブルな取り組みを実施している宿泊施設を旅行者がより簡単に見つけられるようになります。
- レベルを獲得するには、管理画面でサステナビリティへの取り組みを更新することにより、貴施設でどのような取り組みが行われているかをお知らせいただく必要があります。
- 施設の現在の取り組みに十分な影響力が認められた場合、貴施設の「サステナブル・トラベル」のレベルをお知らせするメールが24時間以内に届きます。その後、48時間以内に「サステナブル・トラベル」のラベルが付与され、ユーザーに表示されるようになります。
- このラベルは、対象の宿泊施設が3段階のレベルのうちのいずれかに達していること、あるいは、適格な第三者機関の認証を取得した宿泊施設向けの独自のレベルにあることを示すものです。
- 貴施設のページには、「サステナブル・トラベル」のラベルに加えて、第三者機関による認証も表示されます。

3)booking.comにおける評価手法

「サステナブル・トラベル」レベルは次のとおりです。

- レベル1：効果的なサステナビリティ関連の取り組みをいくつか実施している
- レベル2：効果的なサステナビリティ関連の取り組みを実施するために、比較的大きな投資と努力を行っている
- レベル3：効果的なサステナビリティ関連の取り組みを実施するために、多大な投資と努力を行っている
- 認証取得済み：第三者認証機関の認証を1件以上取得し、環境負荷の低減において大きな効果を生み出すことにより、サステナビリティに非常に貢献している



4)UN/CEFACTにおける評価手法

- SDGs は、12.b で「持続可能な観光のための持続可能な開発の影響を監視するためのツールを開発および実装する」ことを要求しており、持続可能な観光のための**自己評価システム**を開発しました。
- SDGs から旅行/観光業界における10の事業のカテゴリ別に**ビジネス基準**(BS)を設定しました。(次ページ参照)
- SDGsで**直接的に**提示された観光のターゲットを見出しました。
例：ターゲット 8.9 から「雇用創出および産品販促」
ターゲット 11.4、14.7 から：「文化遺産および自然遺産の保護と自然環境の保全」
- そこから持続可能な観光の5つの**重要事項** (PSTI)を抽出しました。
 - A. 「雇用創出および産品販促」
 - B. 「自然環境の保全」
 - C. 「文化遺産の保全」
 - D. 「観光地管理」
 - E. 「その他の持続可能な観光の重要事項」
- **ビジネス基準**を**重要事項** (PSTI)に従って再編成しました。

4)UN/CEFACTにおける評価手法



- 1.食品/レストラン
- 2.宿泊施設
- 3.輸送
- 4.観光地
- 5.ショッピング
- 6.エンターテイメント
- 7.旅行代理店
- 8.地方自治体
- 9.体験プログラム
- 10.旅行者

図1 旅行/観光業界における10のカテゴリ

4)UN/CEFACTにおける評価手法

- 取組を評価するために、持続可能性レベルを設定しました。
- 持続可能性レベルの改善経路は、図1のように段階的な表現で示されます。



図2 持続可能性レベルの改善経路

4)UN/CEFACTにおける評価手法

- 持続可能性レベル 1
実施の初期状態
 - SDGsの意識がない。
持続可能な観光の重要事項に対する理解が不足している。
- 持続可能性レベル 2
限定的な繰り返し状態
 - SDGsはある程度理解されている。
ただし、限られた項目のみを取り上げ、限定的に実施されている。
- 持続可能性レベル3
実施プロセスを確立
 - 標準の実施プロセスが組織で承認されている。
SDGs に対する十分な理解が認められる。
- 持続可能性レベル4
多くの重要事項を実施
 - SDGsがよく理解されている。
持続可能な観光の重要事項の多くが実施されてる。
- 持続可能性レベル5
さらなる継続実施
 - SDGsの完全な認識の下で、持続可能な観光の重要事項が十分に理解され、実施されている。

4)UN/CEFACTにおける評価手法

自己評価結果の表示例

- この表の数字は、持続可能な観光の**重要事項**ごとの**持続可能性レベル**を示しています。
- 0の評価は、取るべきビジネス基準があることを示しますが、レストラン ABC はまだ行動を起こしていません。
- (-) 欄は、持続可能な観光の重要事項に該当するビジネス基準がないことを示します。

持続可能な観光の重要事項	A.	B.	C.	D.	E.
カテゴリ番号 実践者	雇用創出と 商品販売促進	自然環境の保全	文化遺産の保全	観光地管理	その他の持続 可能な観光の 重要事項
4.1レストランABC	1	2	-	-	0

表1 自己評価結果の例

4)UN/CEFACTにおける評価手法

自己評価システムの観光産業への利用案

- ネットワークを通じてビジネス基準や自己評価結果を公開することで、購入者はEPs等の購入時に持続可能性のレベルを確認することができます。
- 図3 は、ネットワークを介した自己評価情報の流れを示しています。

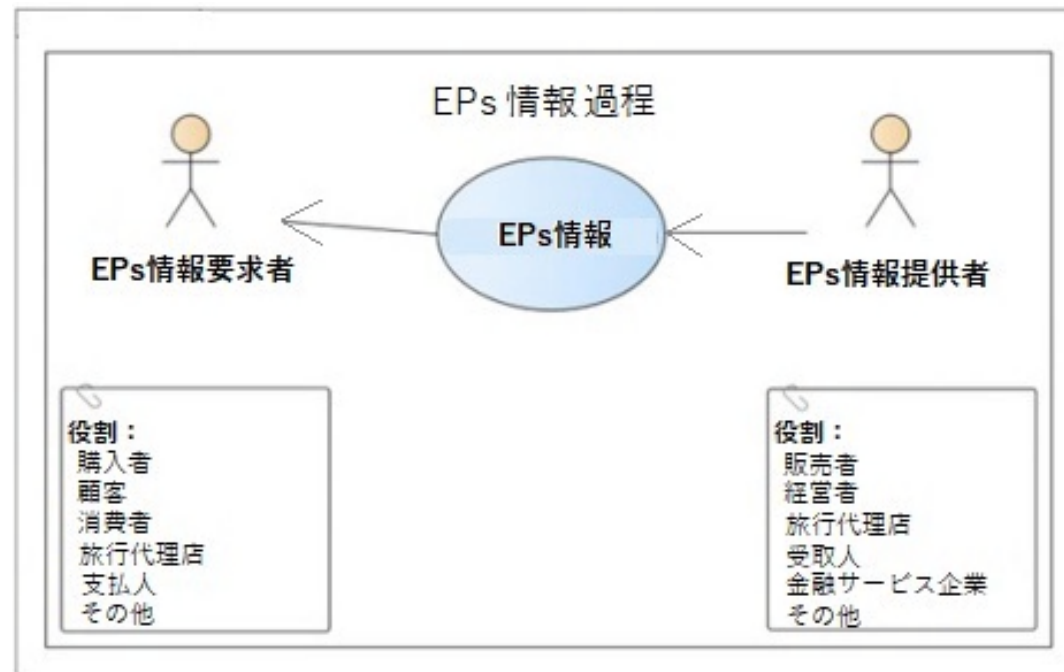
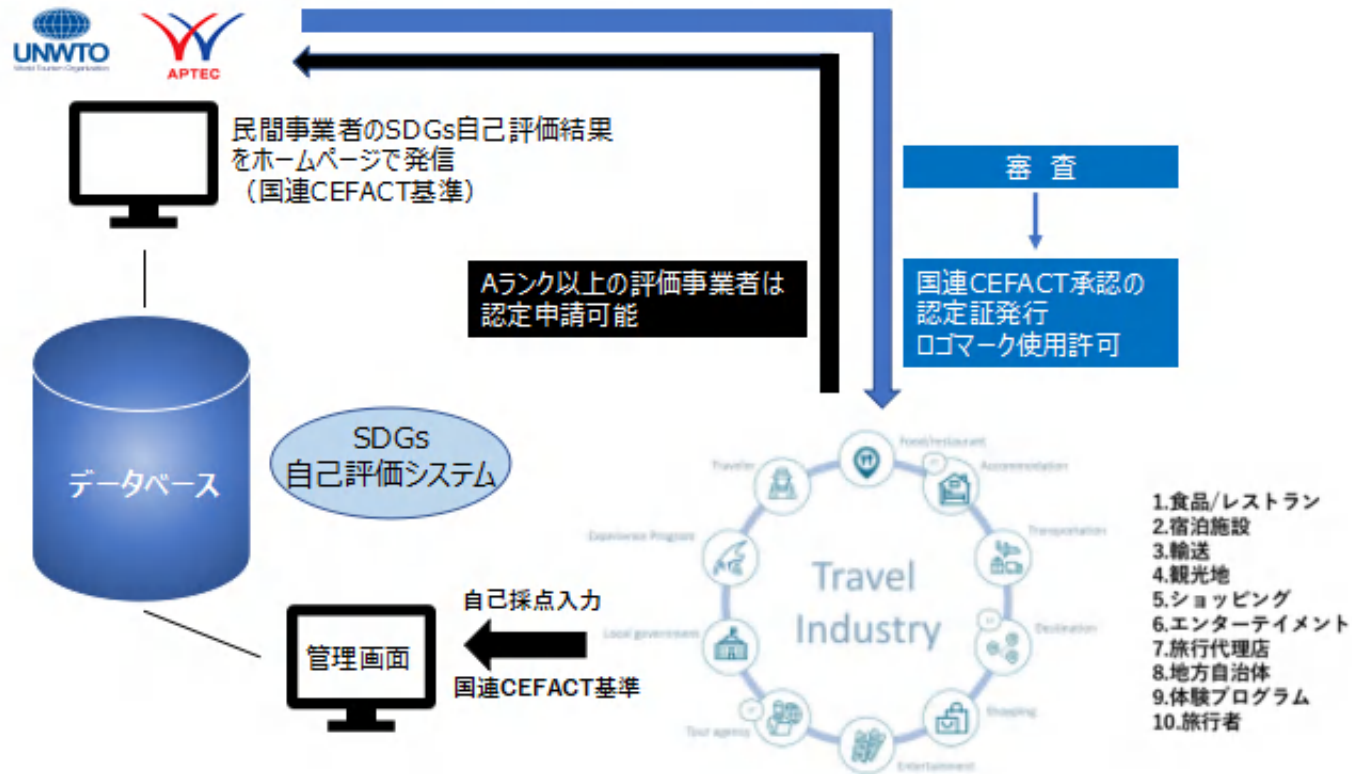


図3 自己評価情報の流れ

4) UN/CEFACTにおける評価手法

民間事業者向けSDGs自己評価システムの構築イメージ



UNWTO駐日事務所から評価システムに関してUNWTO駐日事務所とJTRECとの連携活動案が示されました。